

職員による自己評価

A 環境面

- ・移転をして、活動スペースが確保できるようになった。
- ・広くなった分、視覚や施錠に注意が必要だと感じる。
- ・ガラスが多いので、活動内容によっては注意が必要だと思う。
- ・クールダウンスペースの確保、見直しをした方が良いと思う。

B 児童への支援内容

- ・児童の家庭環境にも気を配るなど、配慮が出来ていると思う。
- ・来年度は、多動の利用者も増えるので、集団でどう活動していくかが課題だと思う。
- ・好きな事だけでなく、協力して何かをする活動が必要だと思う。

C 関係機関との連携

- ・最近では学校の先生と、情報交換をする場が少ないと感じる。
- ・学校にお迎えに行った時、先生からの申し送りが、もう少しあった方が良いと思う。
(特に普通級に通っている児童など)

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者の方々は、日々の出来事やこの先の不安などを、よく相談して下さる。
- ・これから、保護者参加型のプログラムをもっと増やして、更に信頼関係を築けたらと思う。

E 非常対応

- ・新しい避難の流れやヘルメットの置き場などが、全スタッフにまだ浸透していないと感じる。

保護者による評価

A 環境面

- ・(移転をして) 広くなったと喜んでいる。
- ・移転をしてとても広くなり、ダンスやちょっとした運動も周囲を気にせずに出来る。
- ・前回の場所より広く、スペースもかなり整っている。

B 児童への支援内容

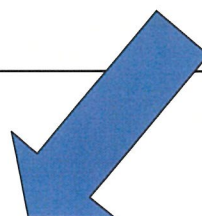
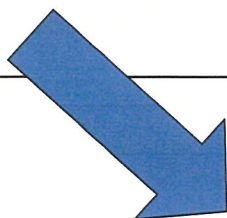
- ・モニタリングや学校からの話、保護者の連絡帳で得た情報をもとに計画され、定着するまで継続して支援をしてくれるため、課題を任せてしまっている。
- ・子どもの状況を見ながら、疲れている時は子どもの好きな事、時間がある時や元気な時は、電車の乗り方、買い物の仕方等、学習を取り入れつつ外出の計画をしてくれている。

C 事業所からの情報発信

- ・LINE でのやり取りにより、共有されていると思う。
- ・スタッフの方々は、研修に参加したりしてたくさん勉強されているので、子どもに合った情報(思春期、身体の変化等)提供があり、助かった。
- ・LINE が出来るようになり、今までよりもっと気軽に連絡が取れるようになった。

D 非常対応

- ・マニュアルにより、緊急時の対応がはっきりしている。
- ・今回の移転で、マニュアルの変更があったが、細かく分かりやすく作成されていた。



事業所内での分析

【共通点】

- ・活動スペースが広がり、活動の幅が広がった。
- ・一人ひとりの特性や環境に応じて、支援することが出来ている。

【相違点】

- ・活動スペースが広くなったからこそ感じる、スペースの使い方や集団活動の難しさ。
- ・新しい環境での緊急時の対応についての把握、安心（不安）感。
- ・保護者同士の交流、情報交換の機会の少なさ。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・昨年12月の移転をきっかけに、活動スペースを広く確保出来るようになった。その為、室内でダンスやモルック等、身体を動かす活動を取り入れる事が可能となった。
- ・子ども達一人ひとりに向き合い、好きな事を取り入れた活動を提供することが出来る。
- ・保護者と情報共有がしやすい環境づくりが出来ている。

事業所の改善点

- ・月に1度の避難訓練に加え、スタッフミーティングをきちんと行い、緊急時の対応について、繰り返し確認を行う。
- ・保護者同士の交流、情報交換の場が少ないことから、保護者同士の連携をもう少し支援していく必要がある。
- ・連絡帳の返し忘れや入れ間違い等、個人情報の取扱いに十分注意をしていく。

～事業所の改善への取り組み～

以前行っていた、保護者同士の交流を目的とするコパンサロンが、感染症感染拡大防止の観点からコロナ禍に中止したままとなっている。保護者同士の情報交換の場を設けるため、コパンサロンの再開と、保護者参加型イベントプログラムの積極的な実施を検討する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

子ども達との関わりの中で、好きな事や興味のある物を取り入れることで、良い支援に繋がっているということが、保護者からの声で分かった。引き続き、一人ひとりの特性に合った支援を行いつつ、集団での活動も行うなど、子ども達との関わりを大切にしていきたい。移転をしたことで子ども達にもスタッフにも、安全面や緊急時の対応についての意識が根付いていない部分があるため、緊急時を想定した避難訓練には、これまで以上に力を入れる必要があると感じている。今後も、子ども達だけでなく、ご家族の方にも寄り添いながら、安心して預けることのできる場所になれるよう、スタッフ全員で努力していきたい。

事業所名

コパン万騎が原

担当者

鈴木 桃香